

山西小学校における校内研究プロジェクト



10月24日(金)に山西小学校にて校内研究授業・授業協議会が行われました。1年1組の担任である伊藤沙和子先生が国語の研究授業(教材名:くじらぐも)を行いました。この『くじらぐも』は、自分たちと同じ

1年生が体育の授業時間という現実から、くじらぐもに乗るために全員で手をつなぎ、声をそろえてジャンプして乗り込み広い空をみんなで泳いだ後、またグラウンドに戻ってくる。という場面転換がダイナミックで動きのあるファンタジーな作品です。

児童たちは、最初に自分たちが出演した自作の映画を鑑賞しました。これは、初めて『くじらぐも』を読んだ児童から発せられた「乗ってみたい」、「探検してみたい」などの声を伊藤先生がしっかりと受け入れクラス全員が演者になることで、楽しみながら主体的に活動できると考え制作されました。

鑑賞後、「くもにのって、どんなおしゃべりをしたいかな。おもいうかべてみよう。」という学習課題を児童に伝えました。さらに、先生は「みんなで一緒にジャンプしてみよう。」と児童たちに呼びかけ、児童と共に手をつなぎ、クラス全員で「天までとどけ!...1,2,3」と児童たちが想像の世界を広げられるような支援を行っていました。

その後、児童たちは「友達と一緒に考えよう。」という先生の呼びかけに対して、自分の写真入りのプリントに自分の考えを仲間と一緒に記述しました。さらにそれを黒板に張られた大きなくじらぐもの上に貼りました。児童たちは貼られた友達の記述を読み自らの学びを深めていました。

しばらくしてから、ある児童から「お休みの子と伊藤先生がまだくじらぐもに乗っていないよ。」という声があがりました。それを聞いた先生は「欠席の人は後日書いてもらってからくもに乗せるね。」と言った後、先生も自分の写真入りのプリントに自分の考えを書き、くじらぐもの絵の上に貼りました。

今年度、山西小学校は『「見方・考え方」を働かせる「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善～誰一人取り残されない学級集団、学習集団をベースに～』を校内研究のテーマとし研究を重ねています。授業は「みんなくじらの上に乘れて良かったね!」という伊藤先生の笑顔あふれるメッセージで終わりました。自分一人ではなく、みんなで仲良く共に学んでいるという学びの安心感を児童が自然と感ずることができた授業が始めから終わりまで展開されていました。『～誰一人取り残されない学級集団、学習集団をベースに～』の校内研究のテーマを意識した山西小学校の先生方の熱い思いが凝縮された素晴らしい授業でした。

授業後、すべての教員が1年1組の教室に集合し、グループごとに研究授業を振り返りました。先生方からは、「子どもたちは言葉の裏にある心情を自分の経験と重ねあわせて考えていた」、「映画を制作したことにより子どもの活動が主体的な取組につながっていた」、「見方・考え方につながる子どもの表現を認めて拾い上げていくことが教師の役割である」等の意見が出されていました。『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けて積極的な意見交換が行われていました。山西小学校の先生方の姿にも、今後も子どもたちと共に学び続け、教師として成長していこうとする前向きさを感じました。...すべては「にのみや学園の子どもたち」のために...

感想等はこちらのフォームをお願いします。

にのみや学園通信 HP

<https://www.town.ninomiya.kanagawa.jp/0000000929.html>

